

## 平成23年1月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成22年12月10日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社 精養軒  
 コード番号 9734 URL <http://www.seiyoken.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長  
 四半期報告書提出予定日 平成22年12月14日

(氏名) 酒井 裕  
 (氏名) 横溝 孝典

TEL 03-3821-2181

配当支払開始予定日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

### 1. 平成23年1月期第3四半期の業績(平成22年2月1日～平成22年10月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年1月期第3四半期	2,255	14.4	185		170		220	
22年1月期第3四半期	2,634	5.3	63		46		53	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年1月期第3四半期	84.43	
22年1月期第3四半期	20.57	

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年1月期第3四半期	4,266	2,950	69.2	1,134.13
22年1月期	4,567	3,217	70.4	1,236.95

(参考) 自己資本 23年1月期第3四半期 2,950百万円 22年1月期 3,217百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年1月期		5.00		5.00	10.00
23年1月期		0.00			
23年1月期 (予想)				10.00	10.00

(注)当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年1月期の業績予想(平成22年2月1日～平成23年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,059	12.4	202		177		230		88.42

(注)当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、[添付資料]3頁「その他」をご覧ください。）

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有

(注)簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

会計基準等の改正に伴う変更 無

以外の変更 無

(注)「四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む) 23年1月期3Q 2,628,000株 22年1月期 2,628,000株

期末自己株式数 23年1月期3Q 26,966株 22年1月期 26,867株

期中平均株式数(四半期累計) 23年1月期3Q 2,601,077株 22年1月期3Q 2,601,254株

#### 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、四半期決算短信(添付資料)3頁「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期の業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
【第3四半期累計期間】 .....	6
【第3四半期会計期間】 .....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

## 1. 当四半期の業績等に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業収益の回復に一部でゆるやかな持ち直しの動きが見られたものの、為替レートや株価の変動により依然として厳しい状況が続いております。

当飲食業界におきましても、雇用や所得に対する不安から個人消費マインドは低迷しており、天候不順による原材料の高騰も重なるなど、非常に厳しい状況下で推移しました。

このような情勢下ではありましたが、当社はピアガーデンにつきましては記録的な猛暑の影響で売上を伸ばしたものの、昼間の上野公園来園者数が減り、レストラン売上高は減少しました。オリジナル商品の販売強化の一環として、平成21年11月よりお歳暮ギフト限定で販売しておりました「上野精養軒カレー・ハヤシセット」を、平成22年3月より上野本店に販売コーナーを設け、さらに全店舗に於いても常時取り扱いを始めました。加えて、既存の売店商品の見直しを図り、ブランデーケーキを個別包装対応に改良したほか、新商品の「フルセック(クッキー)」の取り扱いを同年3月より始めました。なお、東京都美術館店は同館大規模改修工事の為平成22年4月で閉店いたしました。また、東京国立博物館店は同館耐震補強工事のため、同年6月上旬から一時閉店、同年7月より売店を主とした小規模の仮店舗での営業を始めました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は2,255百万円(前年同期比14.4%減)となりました。営業損失は185百万円(前年同期は営業損失63百万円)、経常損失は170百万円(前年同期は経常損失46百万円)、四半期純損失は220百万円(前年同期は四半期純損失53百万円)となりました。売上高を部門別に見ますとレストランの売上高は925百万円(前年同期比19.4%)、宴会他の売上高は691百万円(前年同期比5.8%)となりました。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### (資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は前事業年度末と比べ302百万円減少し4,266百万円となりました。流動資産は102百万円減少の1,526百万円、固定資産は200百万円減少の2,740百万円となりました。

流動資産の減少の主な要因は、現金及び預金が73百万円減少したことや、売掛金が26百万円減少したことによるものです。

固定資産の減少の主な要因は、有形固定資産が減価償却費の計上等により87百万円減少したことや、投資その他の資産の投資有価証券時価の下落で102百万円減少したことによるものです。

#### (負債)

当第3四半期会計期間末の負債合計は前事業年度末と比べ34百万円減少し、1,316百万円となりました。流動負債はわずかに減少の322百万円、固定負債は34百万円減少の994百万円となりました。

流動負債の減少の主な要因は、未払金が47百万円減少したこと、賞与引当金が40百万円増加したこと等によるものです。

固定負債の減少の主な要因は、退職給付引当金が27百万円減少したことや、投資有価証券の時価の下落により、繰延税金負債が17百万円減少したこと、役員退職慰労引当金が11百万円増加したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産は前事業年度末と比べ268百万円減少し2,950百万円となりました。この減少の主な要因は、その他有価証券評価差額金が35百万円減少したことや、利益剰余金が233百万円減少したことによるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前事業年度末と比べ3百万円減少し552百万円となりました。当第3四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は43百万円(前年同期は120百万円の獲得)となりました。この主な要因は、税引前四半期純損失218百万円、退職給付引当金が27百万円減少したこと、売上債権が26百万円増加したことや、減価償却費の計上99百万円、投資有価証券評価損による51百万円等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は53百万円(前年同期は4百万円の獲得)となりました。この主な要因は、有形固定資産の取得により16百万円支出に対し、定期預金の預入と払戻による差額70百万円の収入によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、13百万円(前年同期は13百万円の使用)となりました。この主なものは株主配当金であります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

通期の見通しにつきましては、概ね予想通り推移しており平成22年9月10日発表の「平成23年1月期第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)」の業績から変更はありません。なお、通期の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. その他の情報

(1) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

簡便な会計処理

一般債権の貸倒見積額の算定方法

一般債権に係る貸倒引当金は、前事業年度末に算定した貸倒実績率等から著しい変化がないと認められるため、前事業年度の貸倒実績率等を用いて算定しております。

固定資産の減価償却費の算定方法

減価償却費の方法として定率法を採用している資産については、会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定しております。

(2) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年10月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,391,524	1,464,756
売掛金	70,416	96,467
たな卸資産	30,454	31,152
その他	34,902	37,313
貸倒引当金	1,700	2,200
流動資産合計	1,525,596	1,627,489
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	909,686	976,650
土地	603,193	603,193
その他(純額)	96,461	116,714
有形固定資産合計	1,609,340	1,696,557
無形固定資産		
	4,959	5,302
投資その他の資産		
投資有価証券	837,775	939,406
長期預金	200,000	200,000
その他	88,050	100,573
貸倒引当金	-	2,000
投資その他の資産合計	1,125,825	1,237,978
固定資産合計	2,740,124	2,939,837
資産合計	4,265,720	4,567,326
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	55,974	63,722
未払金	75,474	122,955
未払費用	75,203	68,974
賞与引当金	80,000	40,000
その他	35,147	26,186
流動負債合計	321,798	321,837
固定負債		
退職給付引当金	789,081	815,873
役員退職慰労引当金	119,399	108,728
繰延税金負債	76,278	93,431
その他	9,250	9,992
固定負債合計	994,008	1,028,024
負債合計	1,315,806	1,349,861

(単位：千円)

	当第3四半期会計期間末 (平成22年10月31日)	前事業年度末に係る 要約貸借対照表 (平成22年1月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	131,400	131,400
資本剰余金	4,330	4,330
利益剰余金	2,723,081	2,955,700
自己株式	20,402	20,337
株主資本合計	2,838,409	3,071,093
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	111,505	146,372
評価・換算差額等合計	111,505	146,372
純資産合計	2,949,914	3,217,465
負債純資産合計	4,265,720	4,567,326

(2) 四半期損益計算書  
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年10月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年10月31日)
売上高	2,634,332	2,255,327
売上原価	1,177,441	1,041,398
売上総利益	1,456,891	1,213,929
販売費及び一般管理費	1,519,617	1,398,556
営業損失( )	62,726	184,627
営業外収益		
受取利息	4,846	2,841
受取配当金	6,508	5,796
雑収入	5,183	6,247
営業外収益合計	16,537	14,884
経常損失( )	46,189	169,743
特別利益		
貸倒引当金戻入額	3,000	2,500
特別利益合計	3,000	2,500
特別損失		
固定資産除却損	8,308	62
投資有価証券評価損	-	50,509
特別損失合計	8,308	50,571
税引前四半期純損失( )	51,497	217,814
法人税、住民税及び事業税	2,000	1,800
法人税等合計	2,000	1,800
四半期純損失( )	53,497	219,614



【第3四半期会計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期会計期間 (自平成21年8月1日 至平成21年10月31日)	当第3四半期会計期間 (自平成22年8月1日 至平成22年10月31日)
売上高	796,583	639,347
売上原価	369,865	319,029
売上総利益	426,718	320,318
販売費及び一般管理費	489,586	434,717
営業損失( )	62,868	114,399
営業外収益		
受取利息	1,811	922
受取配当金	120	126
雑収入	1,653	1,643
営業外収益合計	3,584	2,691
経常損失( )	59,284	111,708
特別利益		
貸倒引当金戻入額	1,462	600
特別利益合計	1,462	600
特別損失		
固定資産除却損	3,396	34
特別損失合計	3,396	34
税引前四半期純損失( )	61,218	111,142
法人税、住民税及び事業税	640	700
法人税等合計	640	700
四半期純損失( )	61,858	111,842

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成21年2月1日 至平成21年10月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成22年2月1日 至平成22年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失( )	51,497	217,814
減価償却費	109,008	99,437
貸倒引当金の増減額( は減少)	5,200	2,500
賞与引当金の増減額( は減少)	47,000	40,000
退職給付引当金の増減額( は減少)	12,407	26,792
役員退職慰労引当金の増減額( は減少)	28,920	10,671
受取利息及び受取配当金	11,354	8,637
有形固定資産除却損	6,442	62
投資有価証券評価損益( は益)	-	50,509
売上債権の増減額( は増加)	27,376	26,051
たな卸資産の増減額( は増加)	2,357	698
仕入債務の増減額( は減少)	6,820	7,748
その他	4,900	14,313
小計	109,540	50,375
利息及び配当金の受取額	11,354	8,637
法人税等の支払額	1,023	1,323
営業活動によるキャッシュ・フロー	119,870	43,062
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	480,000	460,000
定期預金の払戻による収入	690,000	530,000
有形固定資産の取得による支出	201,429	15,808
無形固定資産の取得による支出	4,065	297
投資有価証券の取得による支出	899	899
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,607	52,996
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	13,177	13,102
その他	83	64
財務活動によるキャッシュ・フロー	13,260	13,167
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	110,217	3,232
現金及び現金同等物の期首残高	510,545	554,756
現金及び現金同等物の四半期末残高	620,762	551,524

(4) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期累計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年10月31日)

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期累計期間(自 平成22年2月1日 至 平成22年10月31日)

該当事項はありません。